

7-1 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（1998年11月～1999年4月） Recent Seismic Activity in and around Kinki, Chugoku and Shikoku Districts (November, 1998-April, 1999)

大阪管区気象台

Osaka District Meteorological Observatory, JMA

1998年11月～1999年1月、1999年2月～4月の各3ヶ月の震央分布図を第1図(a),(b)に示す。

図の領域内でM4.0以上の地震は24個発生し、最大の地震は、深発地震を除くと1月24日の種子島近海の地震でM6.2、管内では3月16日の滋賀県北部の地震でM4.9であった。管内で有感となった地震は96個、このうち和歌山県北部から紀伊水道北部の浅い地震によるものが37個となっている。

主な地震活動は次のとおりで、1998年11月～1999年1月にかけては特に目立った活動はなかった。

和歌山県北部から紀伊水道北部のやや活発な地震（深さ10km前後）活動は続いている。2月に入ってから一見活発化したように見えるが、これは、基盤的調査観測網が加わったこと、及びトリガーグループの変更等で検知力が向上したことによるものである。

3月25日00時07分、紀伊水道南部の深さ50kmでM4.3の地震があり、和歌山県野上町で震度3を観測したほか、近畿地方から四国東部と三重県で震度1～2を観測した。この地震はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うものであり、その発震機構は圧力軸が北西-南東方向の横ずれ断層型である（第2図）。フィリピン海プレート内の地震は東西方向に主張力軸を持つものが多いが、この付近では、この地震のようなメカニズムが見られる。

2月12日03時16分、京都府南部でM4.0の地震があり、京都府亀岡市で震度4を観測したほか、近畿地方を中心に山陽・四国・東海地方の一部を含む広い範囲で有感となった。この地震の震央付近では1995年7月24日にM4.1の地震（最大震度2）が発生している。この地震の余震活動は、3月下旬前半頃まで活発であった。最大余震は3月12日23時24分、本震のやや南東よりでM3.9の地震が発生し、京都府亀岡市で震度3を観測したほか、近畿北部を中心に三重県・福井県で有感となった。このほか4個の有感余震を観測している。余震は北西から南東方向に分布している。この地震の震央付近を中心とする京都府南部は、大阪管内でも和歌山県北部と並んで微小地震の活動が比較的活発な所である（第3図）。

3月16日16時43分、滋賀県北部でM4.9の地震があり、滋賀県彦根市・近江八幡市・志賀町で震度4を観測したほか、近畿地方を中心に東海北陸地方から中国地方、四国地方の一部にかけての広い範囲で有感となった。この地震の震央付近では、1979年にM4.9（最大震度4）の地震が発生している。地震活動は、本震-余震型で推移し、3月22日05時05分のM3.3（最大震度1）を最大として、減衰している。余震は南北方向に分布している（第3図）。

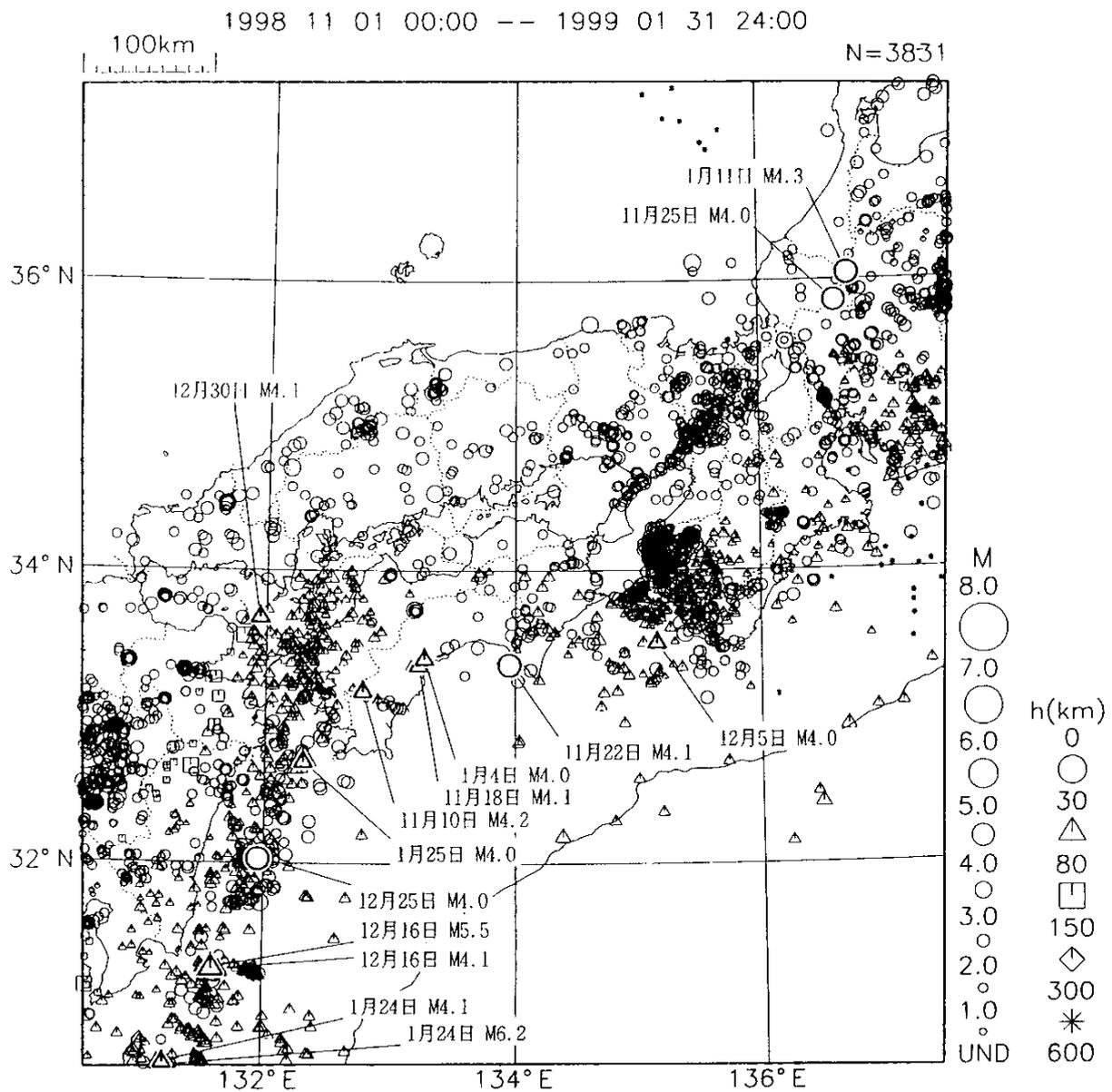
三重県中部で2月18日17時45分M3.9の地震が発生し、奈良県東吉野村・御杖村・黒滝村で震度3を観測したほか、奈良県・滋賀県・京都府・大阪府・和歌山県・三重県にわたる広い範囲で有

感となった。この地震は1月末から活発な活動が続いている三重県中部の活動領域から7～8km程度西方の三重・奈良県境付近で発生した。この地震を最大として、活発な活動域を含むこの周辺ではほか5個の有感地震が発生した（別項「関西地方の地震活動」参照）。

中国地方、四国地方では特に目立った活動はなく、定常的な活動で推移している。

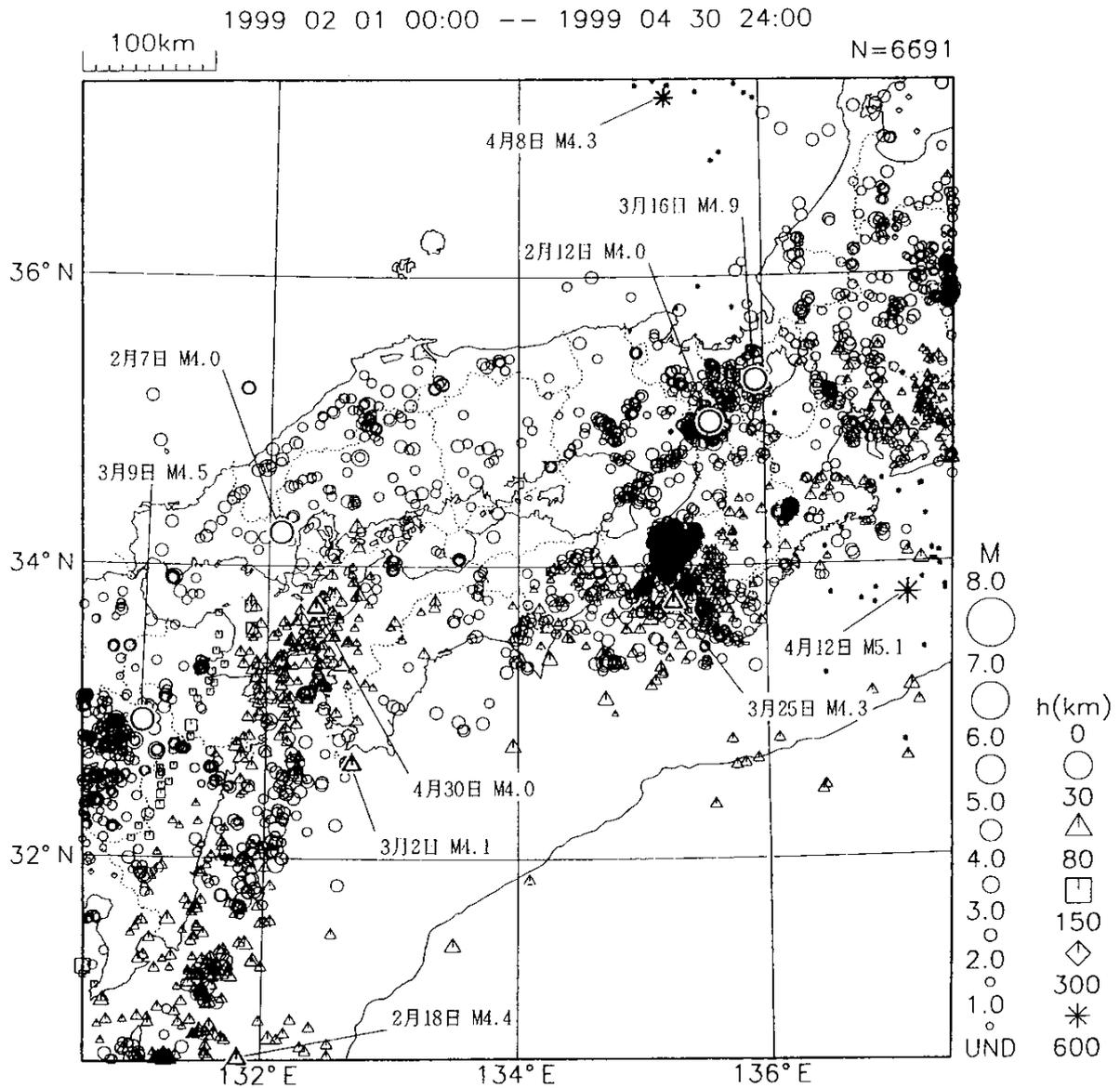
「兵庫県南部地震」の余震活動は、その後も引き続き順調に減衰している。

1月21日、淡路島付近の地震（M3.5）により、神戸長田区などで震度1を観測した。有感余震は1998年1月19日（最大震度1）以来1年ぶりである。この期間の無感余震は13回あった。本震発生から4月30日までの余震総回数は2714回、有感回数は421回であった（第4図）。



注) 図中のマークはM4以上の地震を示す

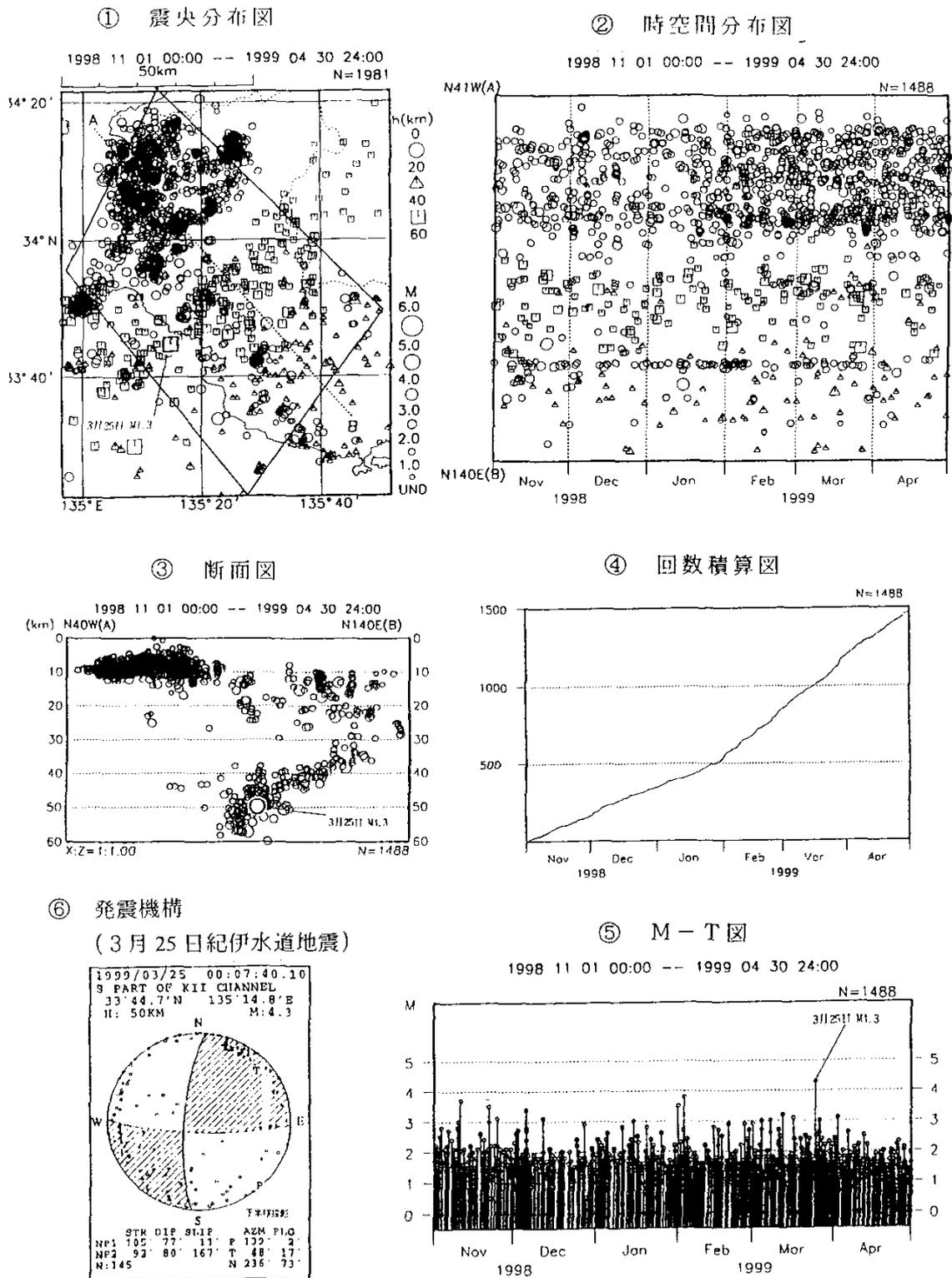
第1図(a) 近畿・中国・四国地方のその周辺の震央分布図 (1998年11月~1999年1月)
 Fig.1(a) Epicentral distribution in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku Districts (November, 1998-January, 1999)



注) 図中のマークはM 4 以上の地震を示す

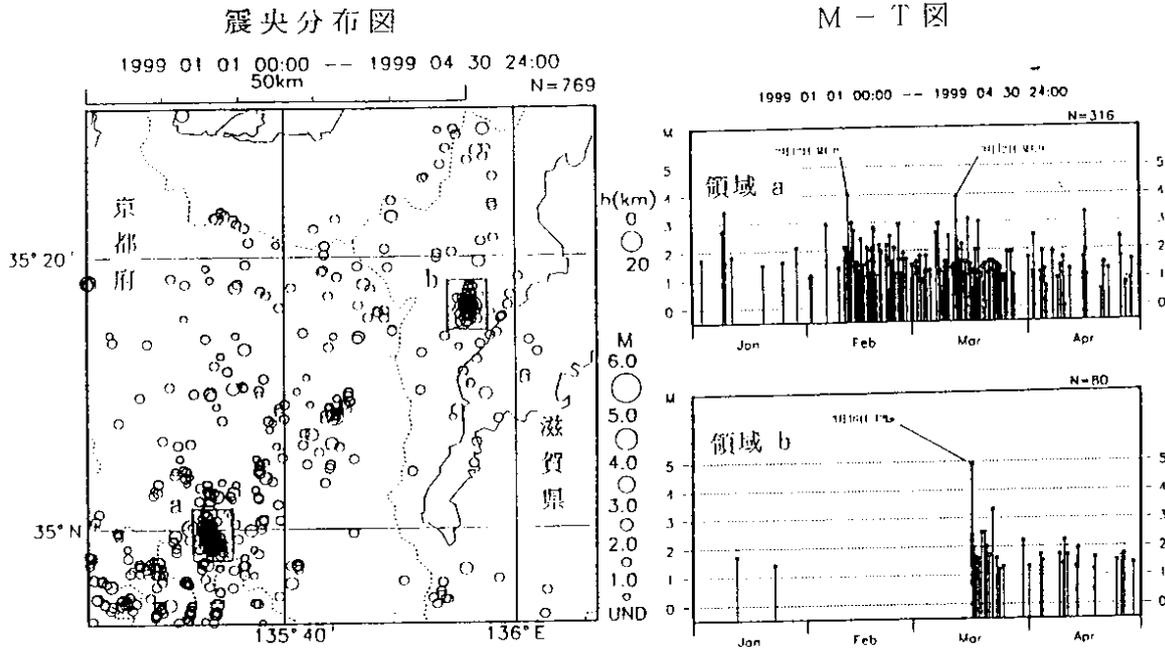
第1 図(b) 近畿・中国・四国地方のその周辺の震央分布図 (1999 年 2 月~1999 年 4 月)

Fig.1(b) Epicentral distribution in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku Districts (February, 1999-April, 1999)

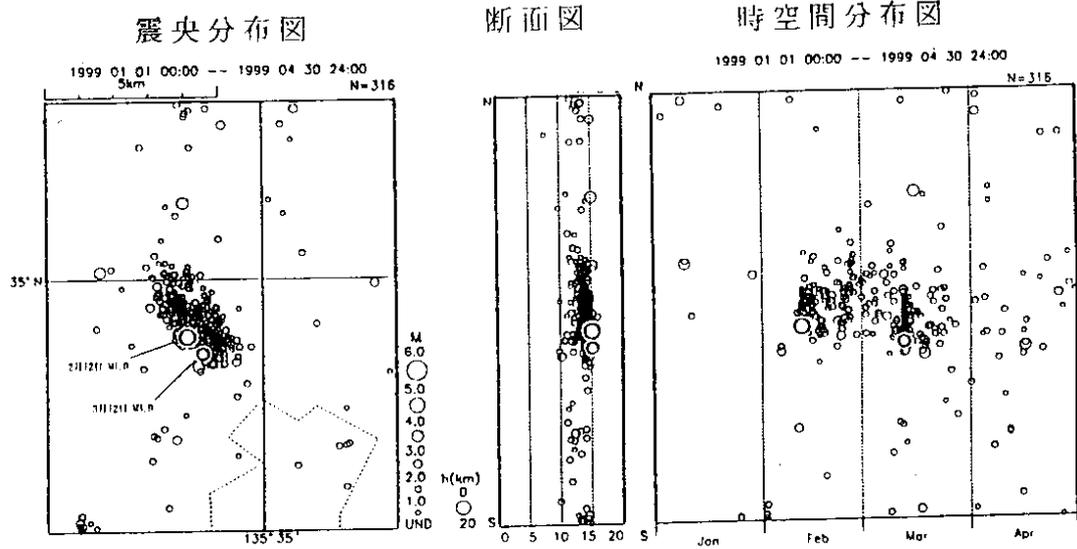


第2図 和歌山県の地震活動

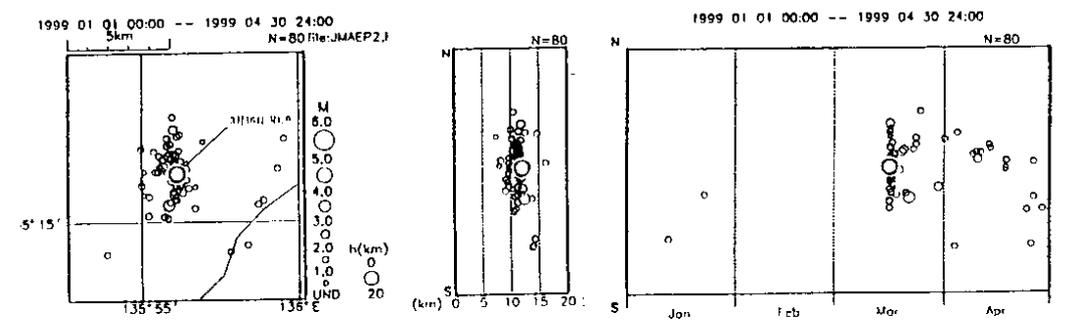
Fig.2 Seismic activity in Wakayama Prefecture (November, 1998-April, 1999).



(a) 京都府南部の地震震央分布図

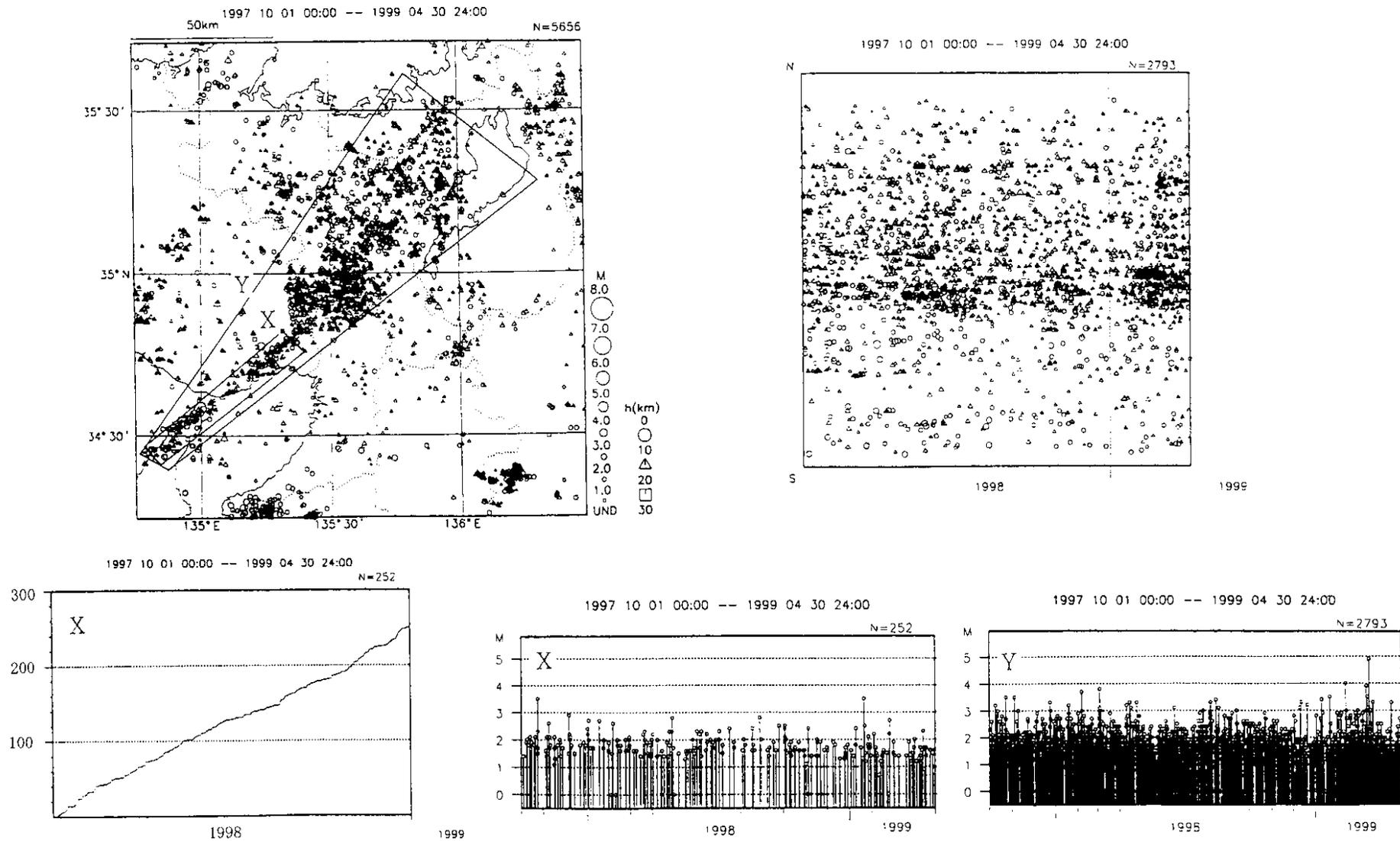


(b) 滋賀県北部の地震震央分布図



第3図 京都府・滋賀県北部の地震活動 (1999年1月~1999年4月)

Fig.3 Seismic activity in Southern Kyoto and Northern Shiga Prefectures (January, 1999-April, 1999)



第4図 兵庫県南部地震の余震活動と周辺の地震活動 (1997年10月~1999年4月)

Fig.4 Aftershocks of the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake and seismic activity of the adjacent region.